Baroque in Chapel

バロック イン チャペル

金子堅治 バロック歌曲リサイタル

2018年10月28日(日) 午後1時30分開演

St.AGNES CHAPEL

主催：アルス・ノヴァ　　後援：会津演奏家連盟

ごあいさつ

本日は《バロック・イン・チャペル 〜 金子堅治 バロック歌曲リサイタル》にお越しいただきありがとうございます。

バロック時代の声楽作品を、響きの豊かなチャペルでお楽しみください。演奏をお聴きいただいた後は、余韻そのままに会場をサロン・ド・アルページュに移し、アニエス会津専属パティシエ特製のスイーツにお飲物を添えてお召し上がりいただきます。バロック歌曲とアフタヌーンティー、素敵な午後のひとときをお過ごしいただければと存じます。

さて本日のプログラムですが、バロック時代の声楽作品の成り立ちから終焉までを時代を追って切り取り構成しました。歌詞はダウランドとヘンデルは初期近代英語、カッチーニはイタリア語、モンテヴェルディはラテン語、バッハはドイツ語と様々ですが、プログラムの前半に世俗作品を、後半には宗教作品を集めました。

バロックとは「いびつな真珠」を意味するポルトガル語"barroco"が語源であるとされ、均整と調和を特徴とするルネサンス様式から外れたものへの蔑称に由来します。音楽史の上ではカッチーニらによってモノディー様式が確立された1600年から、バッハが亡くなった1750年までをバロック時代と呼びます。日本の芸能分野でいうと江戸時代に歌舞伎が形作られていった時期にちょうど重なります。

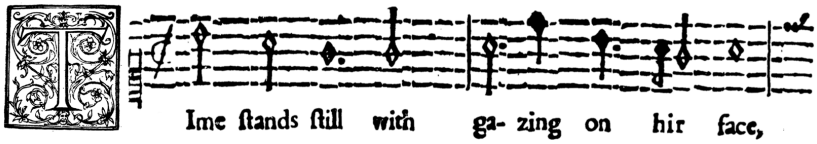
ルネサンスやバロック時代の音楽を、当時の楽器や演奏法を用いて本来の姿で演奏しようとする動きはまず海外で始まり、1980年以降日本でも活発に行われてきました。私は、国立音楽大学に入学した1983年、当時バロック唱法の草分け的合唱団であった《コレギウム・ヴォカーレ東京》でバッハのモテット『イエス、わが喜び』"Jesu, meine Freude BWV227"を歌い、素顔のバロック音楽と初めて出会いました。古楽の響きはあまりにも新鮮で「こんなにも美しい音楽があったのか」と身震いしたことを今でも忘れることができません。

長い間舞台から遠ざかっていましたが、一昨年ピアノの恩師である秋月和子先生を偲ぶ会で「献奏」という形で歌わせていただく機会を得ました。その折にこのチャペルの存在を知り、あまりの響きの豊かさに驚き「ぜひここでバロック作品を歌いたい」と本日のリサイタルの準備をスタートしました。本日の共演者である江川龍二君は高校入学以来の友人ですが、毎月重ねてきた彼との練習では、まるで学生時代に戻ったかのような充実した時間を過ごすことができました。

さて、カリヨンの鐘が聴こえてまいりましたらどうぞお席におつきください。ルネサンスとバロックの狭間を生きた孤高の作曲家、ジョン・ダウランドの実に穏やかな一曲 "Time stands still"（時は立ち止まり）をまずお届けいたします。

本日は最後までごゆっくりお楽しみください。

金子 堅治



時は立ち止まり　彼女に見とれる
静かに見つめよ　何分　何時間　何年でも　彼女にその座を譲るまで
すべてのものが変わろうと　彼女の美しさが褪せることはない
星々がその軌道を変え　時がその名を失おうと
愛の神キューピッドは　彼女の澄んだ瞳に惑わされ　天空を彷徨い
運命の女神は　彼女の足元にひざまずき　蔑まされ　横たわる

プロフィール

《テノール》　金子 堅治（KENJI KANEKO）

1965年東京生まれ。６歳よりピアノを始める。会津高校在学中に声楽を藤村晃一、ピアノを秋月和子の両氏に師事。国立音楽大学音楽学部声楽科（テノール専攻）に進学し田島好一氏に師事。バロック作品のほか、F.シューベルト、R.シューマンを中心にドイツ・リートを学ぶ。またクラシックギターを田島淳志氏に師事。

会津大学短期大学部社会福祉学科（保育士養成課程）では12年にわたり教壇に立ち、多くの学生の指導に当たる。現在はアルス・ノヴァ金子音楽教室を主宰し、妻とともに幼稚園生から大人まで、初心者から音大受験生までに、ピアノ・声楽・ソルフェージュ、さらにギターなどの指導に幅広くあたっている。合唱の指導にも定評があり、おおるリコーラス（磐梯町）では2003年以来、16年にわたり指揮者を務めている。

《チェンバロ / ポジティフ・オルガン》　江川 龍二（RYUJI EGAWA）

1964年会津若松市出身。国立音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。ピアノを秋月和子、ウラジミール・竹ノ内、池沢幹男、指揮を小塚類の各氏に師事。

大学卒業後は福島県立高校の音楽教諭として勤務、また長期研究員として福島県教育センターに勤務した。現在は自宅にて音楽教室を主宰。音楽大学等を志す後進の育成にあたっている。独奏の他、オーケストラや吹奏楽団、合唱団、器楽奏者、声楽家との共演も数多い。

公益財団法人会津若松文化振興財団文化のまちづくり事業委員。あいづ・あすなろ合唱団指揮者、にろく大学歌唱教室講師、会津演奏家連盟代表。

《Blanchet 1765》

《C-30》

◆本日の演奏では浜松市楽器博物館所蔵のフランスの歴史的銘器1765年製ブランシェをサンプリングしたRoland社製デジタルハープシコードC-30を使用します。また調律は《ヴェルクマイスター》と呼ばれる古典調律を用います。和音や調性の色合いもよりはっきりと感じられることと思います。ピアノなどで普段聞き慣れた平均律との響きの違いもお楽しみください。

前半プログラム

I. 《ルネサンスの残照》

ジョン・ダウランド　『リュート歌曲集』
John Dowland　"The Booke of Songes or Ayres"

1. 時は立ち止まり　（第３巻 1603年）
   Time stands still

2. 愛する人が泣くのを見た　（第２巻 1600年）
   I saw my Lady weepe

3. 帰っておいで　（第１巻 1597年）
   Come againe

4. あふれよ わが涙　（第２巻 1600年）
   Flow, my teares

5. 見よ この奇跡を　（第３巻 1603年）
   Behold a wonder here

II. 《バロックの胎動》

ジューリオ・カッチーニ　『新しい音楽』　『新しい音楽と新しい書法』
Giulio Caccini　"Le nuove Musiche"　"Nuove Musiche e nuova maniera di scriverle"

1. ぼくの美しいアマリッリよ　（新しい音楽 1602年）
   Amarilli mia bella

2. 愛の神よ 何を待っているのですか　（新しい音楽と新しい書法 1614年）
   Amor ch'attendi

3. なんと甘いため息よ　（新しい音楽 1602年）
   Dolcissimo sospiro

4. 天にもこれほどの光はなく　（新しい音楽と新しい書法 1614年）
   Non ha 'l ciel contanti lumi

5. ああ 戻ってきておくれ《ロマネスカ》　（新しい音楽と新しい書法 1614年）
   Torna, deh torna　《Romanesca》

♪ 休 憩 ♪

プログラム・ノート

♪ J.ダウランド作曲　『リュート歌曲集』♪

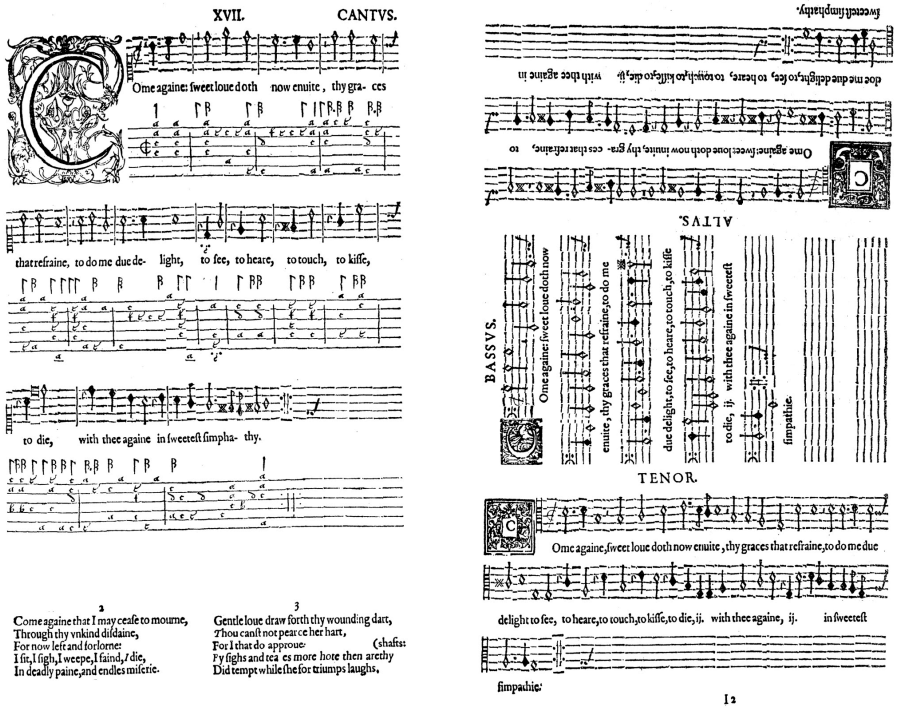
ジョン・ダウランド（1563-1626）は17世紀ヨーロッパで活躍したリュートの名手です。オックスフォード大学から学位も受け、女王付き宮廷奏者の地位を望みましたが、カトリック教徒であったために聖公会は受け入れませんでした。落胆したダウランドはイギリスを離れヨーロッパ各地を転々とします。40歳を過ぎてようやくイギリスに戻り、1612年に念願の宮廷奏者となりますが、リュートをこよなく愛したエリザベスI世はすでにこの世にありませんでした。新たに即位したジェームズI世に仕え、波乱に満ちた人生にピリオドを打ちますが、皮肉にも安定した生活は彼の創作意欲を削いでいったようで、次第に作曲活動から距離を置くようになります。孤独と苦悩、そして絶望こそが彼の創作の糧だったと言えます。

ダウランドは一般的にはルネサンスの作曲家に分類されますが、時代区分を超えてリュート・エアというイギリス独自の音楽分野で数多くの名曲を残しました。その作品は素朴な感情を歌ったものが大半を占め、ガイヤルドやパヴァーヌなどの舞曲のリズムを持つもの、マドリガルを思わせるポリフォニックな作品、カンツォネッタ風のものと作曲スタイルは様々ですが、どの曲にも愛の苦悩や失意があふれており、どこか物悲しさが漂います。

リュート・エアは融通性のある演奏形態が特徴で、リュート伴奏の独唱でも、声楽やヴィオールのアンサンブルや、さらにヴィオラ・ダ・ガンバで低音を補強したり、リュートの代わりにヴァージナル（箱型の小型チェンバロ）で伴奏することも可能でした。また楽譜の配置（図１）も特徴的で、歌、タブラチュア（リュートの運指譜）、さらにアルト、テノール、バスの各パートが一枚の譜面を四方から囲んで演奏できるように工夫されています。

『帰っておいで』当時の出版譜

（図１）



♪ G.カッチーニ作曲　『新しい音楽』『新しい音楽と新しい書法』♪

ジューリオ・カッチーニ（1545-1618）はローマに生まれ、優れたテノール歌手として頭角を現します。メディチ家にその楽才を見込まれて文化の最先端都市であったフィレンツェへ招かれたカッチーニは、誕生したばかりのオペラを作曲する傍ら、1602年に歌曲集『新しい音楽』、1614年には補完版である『新しい音楽と新しい書法』を出版します。作曲理念やモノディ様式、正しい演奏法や装飾音の実例などを細かく示し、新しい音楽（バロック）の誕生を強く牽引しました。

当時円熟を極めていたルネサンス音楽は、ポリフォニー（多声音楽）が主流で、均整のとれた滑らかな響きの美しさを持つ反面、複雑に声部が絡まりその歌詞は聞き取りにくいものとなっていました。フィレンツェの音楽家や詩人たちは、古代ギリシャの劇音楽を復活させようとカメラータ（仲間）を結成し、「歌詞の意味を表現したい」「詩を聞き取りたい」という要求から新しい形の音楽（モノディ様式）を生みだします。それは独唱者が言葉のアクセントや区切り、意味、感情に即した旋律を歌い、それを通奏低音と呼ばれる低音楽器による対旋律と即興による和音伴奏が支えるというものでした。

初期バロックの歌曲は、言葉を語ることを重視して詩の抑揚に沿って音楽が進む《独唱マドリガーレ》と、軽快な三拍子の舞曲のリズムにのって１番・２番・３番と歌われる有節歌曲の《アリア》の２種類に分けることができます。《独唱マドリガーレ》では「恋する男の不幸な嘆き」が、《アリア》では「恋の喜びや幸福」が歌われます。

後半プログラム

III. 《煌めきのバロック》

クラウディオ・モンテヴェルディ　『倫理的・宗教的な森』　作品287（1641年）
Claudio Monteverdi　"Selva morale e spirituale" SV287

36. 主をほめたたえよ
Laureate Dominum in sanctis ejus

ゲオルク・フリードリッヒ・ヘンデル　『メサイア』 作品56 （1741年）
Georg Friedrich Händel　"Messiah"　HWV56

2. 慰めよ、わが民を慰めよ　（アコンパニャート）
Comfort ye, comfort ye my people

3. もろもろの谷は高くせられ　（アリア）
Ev'ry valley shall be exalted

IV. 《バロックの終焉》

ヨハン・セバスティアン・バッハ　『われ満ちたれり』　カンタータ 82番　（1727年）
Johann Sebastian Bach　"Ich habe genug"　Kantate BWV82a

1. 私は満ち足りている　（アリア）
Ich habe genug

2. 私は満ち足りています！ 私の慰めはただ一つ　（レチタティーヴォ）
Ich habe genug! Mein Trost ist nur allein

3. まどろめ、疲れた目よ　（アリア）
Schlummert ein, ihr matten Augen

4. 神よ！ 美しいその時はいつ来るのでしょう　（レチタティーヴォ）
Mein Gott! wenn kömmt das schöne : Nun!

5. 私は死を喜び迎えよう　（アリア）
Ich freue mich auf meinen Tod

プログラム・ノート

♪ C.モンテヴェルディ作曲　『倫理的・宗教的な森』作品 287 ♪

クラウディオ・モンテヴェルディ（1567-1643）は初期バロック・オペラの傑作『オルフェオ』の作曲者として知られますが、ルネサンスの作曲家としてその音楽人生をスタートさせ、生前に全部で８巻の《マドリガーレ集》を発表しました。伝統的なポリフォニー書法から始まり、感情表現を重んじるモノディ様式の独唱音楽、そして半音や大胆な不協和音で直接的に歌詞を訴える音楽へと変化していきます。まさにルネサンスからバロックへと駆け抜けた作曲家でした。

伝統的な作曲法を第１技法（言葉は音楽のしもべであれ）、不協和音を自由に用いるなどそれまでの禁則を破る新しい作曲法を第２技法（音楽は言葉のしもべであれ）と呼び、新しい音楽（バロック）の正当性を主張しました。

第36曲『主をほめたたえよ』はソプラノまたはテノールと通奏低音のための作品で、テキストには聖書の詩篇150番を引用しています。歌詞にはチューバ、竪琴、琴、鼓、シンバルなど様々な楽器が登場します。それぞれの楽器の音を模した音型や、現代の音符でいう32分音符の非常に細かいパッセージが散りばめられたとても華やかな作品です。

♪ G.F.ヘンデル作曲　オラトリオ『メサイア』作品56 ♪

ゲオルク・フリードリッヒ・ヘンデル（1685-1759）はバッハと同じ1685年、ドイツ中部に生まれます。バッハが音楽一族の生まれで、一度もドイツを離れずに教会や宮廷に職を求め、二度の結婚で20人もの子供をもうけたのに対して、ヘンデルは音楽とは無縁の家系に生まれ、法律を学び、生涯独身を通し、イタリア各地を巡ってはオペラに触れ、最後はイギリスに帰化してジョージI世に仕えた国際派でした。旋律の美しさやリズムの躍動感、ドラマティックな作品構成やスケールの大きさなど、大衆の心を掴むその作風はエンターティナーそのものであったと言えます。

《メサイア》はバビロニアに囚われたユダヤの民の苦難を象徴する重々しい序曲から始まり、預言とイエスの降誕、受難と復活、そして永遠の命の三部からなる二時間半を超える長大な作品で、独唱、重唱、合唱から構成される『オラトリオ』と呼ばれる衣装や舞台装置を用いない音楽劇です。

第２曲『慰めよ、わが民を慰めよ』は柔らかい響きのアコンパニャート（オーケストラ伴奏付きレチタティーヴォ）にのり「救世主が現れ、戦いのあったエルサレムは赦され、その民衆は慰められる」との預言が告げられます。すると「主の道を整えよ。荒野にわれらの神の大路をつくれ」と呼びかける声がし、アタッカ（切れ目なく）で第３曲に引き継がれます。

第３曲『もろもろの谷は高くせられ』では生命力に溢れる前奏に続いて、救世主が現れるのだから「すべての谷は高く、すべての山や丘は低く、曲がりくねった道ははまっすぐに、荒野は平地にされるだろう」と歌われます。これは救世主の前では人間の価値や身分の差は意味を持たないことの暗喩で、それぞれの言葉は音楽修辞学的に音の動きで表されています。

♪ J.S.バッハ作曲　『われ満ちたれり』カンタータ 第82番♪

ヨハン・セバスティアン・バッハ（1685-1750）は聖トーマス教会のカントル（音楽監督）として、日曜日の礼拝に合わせて年間50〜60曲ものカンタータを毎週作曲しては演奏していました。この作品は1727年２月２日のマリアの潔めの祝日のために作曲されました。まずアルト・メゾソプラノ版として着想され、バス版として完成、その後バッハ自身の手によりソプラノ版にも編曲され、全ての声部で歌える貴重なソロカンタータとなりました。第２曲、第３曲はチェンバロ伴奏の歌曲として《アンナ・マグダレーナの音楽帳》に組み入れられ、バッハの家庭でもしばしば演奏されていたようです。

聖書の福音書（ルカ伝第２章）がこの物語のベースになっています。「主のつかわす救世主に会うまでは死ぬことはない」と聖霊から啓示を受けていたエルサレムの老人シメオンは、清めの期間が終わりイエスを連れてエルサレムの神殿に赴いたヨセフとマリアに出会います。シメオンは幼子イエスをその胸に懐き「主よ、今こそあなたは御言葉のとおりにこの僕を安らかに去らせてくださいます、わたしの目が今あなたの救いを見たのですから」と独白します。

バッハならではの精神性の深さと、それを具象化する緻密な構成が光るソロ・カンタータの最高傑作です。音楽史の上でも1750年のバッハの死をもって《バロックの終焉》と見なすのもなるほどと頷けます。

第１曲「救い主をこの腕に抱いているのだから私は満ち足りている」とシメオンは幼子イエスを胸に懐き歌います
第２曲「シメオンと共にあの世の喜びを垣間見よう」とバッハ自身の言葉として聴衆に語りかけます
第３曲「まどろめ疲れた眼よ、この世は苦しみばかりで自分の居場所はない」と歌われる永遠の眠りへの子守唄です
第４曲「その夢見た穏やかな来世はいつ来るのか」と神に問いかけ、この世に別れを告げます
第５曲「私は喜んで死を迎えよう」と精神の肉体からの解放への高ぶる期待が舞曲のリズムにのせて歌われます

John Dowland : The Lute Songs　ダウランド『リュート歌曲集』

1. Time stands still　1. 時は立ち止まり

Time stands still with gazing on hir face.　時は立ち止まり　彼女に見とれる
Stand still and gaze for minutes, houres　静かに見つめよ　何分　何時間
And yeares to her give place.　何年でも　彼女にその座を譲るまで
All other things shall change,　すべてのものが変わろうと
But shee remaines the same,　彼女の美しさが褪せることはない
Till heavens changed have their course　星々がその軌道を変え
& time hath lost his name.　時がその名を失おうと
Cupid doth hover up and downe,　愛の神キューピッドは
Blinded with hir faire eyes,　彼女の澄んだ瞳に惑わされ　天空を彷徨い
And Fortune captive at hir feete　運命の女神は　彼女の足元にひざまずき
Contem'd and conquerd lies.　蔑まされ　横たわる

2. I saw my Lady weepe　2. 愛する人が泣くのを見た

I saw my Lady weepe,　愛する人が泣くのを見た
And Sorrow proud to bee advanced so:　悲しみも　なんという栄誉を受けたものか
In those faire eyes where all perfections keepe,　全てが完璧な彼女の目に宿るとは
Hir face was full of woe,　But such a woe,　彼女の顔は悲しみに満ちている
believe me, as wins more hearts　でもその涙を溜めたその表情は（本当の話）
Than mirth can doe with hir intycing parts.　微笑む顔よりずっと魅力的だ

Sorrow was there made faire,　悲しみも　彼女にあっては美しく
And Passion wise, teares a delightfull thing,　熱情も賢明に　涙もむしろ喜ばしいものとなる
Silence beyond all speech a wisdome rare,　沈黙は　どんな言葉より優っている
Shee made hir sighes to sing,　彼女は溜息すら歌にしてしまう
And all things with so sweet a sadnesse move,　すべてが甘美な感情となって
As made my heart at once both grieve and love.　ぼくの心を　愛と悲しみの底に突き落とすのだ

O fayrer than ought ells　ああ だれよりも美しい人
The world can shew, leave of in time to grieve,　この世に優るものはない　もう嘆くのはおよし
Enough, enough, your joyfull lookes excells.　もういいあなたには笑顔のほうが似合っている
Teares kills the heart, believe,　涙は　人の心を傷つける
O strive not to bee excellent in woe,　ああ嘆くことを　人に優ろうとしないでおくれ
Which onely breeds your beauties overthrow.　あなたの美しさを壊さずにおかないから

3. Come againe　3. 帰っておいで

Come againe; sweet love doth now envite,　帰っておいで　やさしい愛が呼んでいる
Thy graces that refraine, To do me due delight,　ためらう美しいきみに　ぼくに喜びを与えてと
To see, to heare, to touch, to kisse, to die,　見つめあい　溜息をきき　きみに触れ　唇を重ね
With thee againe in sweetest simphathy.　命果てるまで　きみとふたたび愛し合えたら

Come againe; that I may cease to mourne,　帰っておいで　ぼくの嘆きを止めてくれ
Through thy unkind disdaine, For now left and　きみの意地悪な目　今ぼくは独り捨てられ
forlorne: I sit, I sigh, I weepe, I faind, I die　座り込み　溜息をつき　涙し　虚ろで死にそうだ
In deadly paine, and endles miserie.　苦痛がこれほど激しく惨めさは果てしないとは

Gentle Love, draw forth thy wounding dart,　やさしい愛の神よ　その矢を放っても
Thou canst not pearce hir heart,　彼女の心を射抜くことはできないさ
For I that do approve: By sighs and teares　ぼくも気持ちを伝えてはみたけれど
more hote than are thy shafts　お前の矢よりもずっと熱い溜息と涙で
Did tempt while she for triumps laughs.　でも彼女は勝ち誇ったように笑うだけなのさ

4. Flow, my teares

Flow, my teares, fall from your springs,
Exilde for ever: Let mee morne
Where nights black bird hir sad infamy sings,
There let mee live forlorne.

Downe vaine lights, shine you no more,
No nights are dark enough for those
That in despaire their last fortuns deplore,
Light doth but shame disclose.

Never may my woes be relieved,
Since pittie is fled,
And teares and sighes and grones
my wearie dayes,　Of all joyes have deprived.

From the highest spire of contentment,
My fortune is throwne,
And feare and griefe and paine for my
deserts, Are my hopes, since hope is gone.

Harke!　you shadowes that in darknesse dwell,
Learne to contemne light,
Happie, happie they that in hell
Feele not the worlds despite.

5. Behold a wonder here

Behold a wonder here
Love hath receiv'd his sight
Which manie hundred yeares,
Hath not beheld the light.

Love now no more will weepe
For them that laugh the while,
Nor wake for them that sleepe,
Nor sigh for them that smile.

Thus Beautie shewes her might
To be of double kind;
In giving love his sight
And striking folly blind.

エリザベスI世

4. あふれよ　わが涙

あふれよわが涙　お前の泉より滝となって
永遠に追放され　ぼくは嘆きに浸ろう
夜の黒い鳥が悲しい辱めを歌っている闇の中で
ぼくは独りうち萎れて生きよう

いなくなれ　虚しい星たちよ　もう輝くな
夜の闇は　どんなに深くとも 深すぎはしない
絶望の淵で　運命の最期を欺くものには
光はただ恥辱を照らし出すだけなのだ

この悲しみが　癒される日は来ないだろう
憐れみはもう跡かたもない
涙と溜息と呻きが　ぼくの疎ましい日々から
あらゆる喜びを奪ってしまったのだから

幸せの絶頂から
ぼくの運命は転げ落ち
恐れと嘆きと痛みが消し去ったのだ
ぼくの希望のすべてを

聴け!　暗闇に住む影たちよ
光を忌み嫌うがいい
幸せだろう　地獄に落ちて
この世の蔑みをもはや感じないのだから

5. 見よ　この奇跡を

見よ　この奇跡を
愛の神は　その瞳を見開いたのだ
何百年もの長い間
光すら見ることのなかったその瞳を

愛の神は　もはや涙を流すことはない
しばし微笑む者の為に
寝ている者の為に　目覚めることも
微笑む者の為に　ため息を漏らすこともない

こうして彼女の美しさは
ひときわ輝きを増し
愛の神の瞳を開かせ
愚かさを打ちのめし　盲目にするのだ

ダウランド

Giulio Caccini ：Le Nuove Musiche カッチーニ　『新しい音楽』

1. Amarilli mia bella

Amarilli mia bella,
Non credio del mio cor Dolce desio,
D'eser tu l'amor mio?
Credilo pur e se timor t'assale,
Prendi questo mio strale,
Aprimi il petto, e vedrai scritto il core
Amarill è'l mio amore.

1. ぼくの美しいアマリッリよ

ぼくの美しいアマリッリよ
信じておくれ
君こそぼくの恋人だろう？
もし不安に慄くなら
矢でこの胸を切り開いて
心に刻まれたこの言葉を見るがいい
アマリッリこそぼくの恋人　と書いてあるから

2. Amor ch'attendi

Amor ch'attendi, Amor che fai?
Su, che non prendi Gli strali omai;
Amor vendetta, Amor saetta
Quel cor ch'altero Sdegna 'l tuo impero.

Amor possente Amor cortese
Dirà la gente Pur arse e prese
Quella crudele, Che, di querele
Vaga, e di pianti, Schernia gli amanti.

Dall'alto cielo Fulmina Giove,
L'Arcier di Delo Saette piove,
Ma lo stral d'oro S'orni d'alloro
Che di possanza Ogni altro avanza.

2. 愛の神よ　何を待っているのですか

愛の神よ　何を待っているのですか？
さあ手を差し伸べて　矢を取ってください
愛の神よ　復讐の矢を放ってください
あなたを侮辱する　高慢なあの人の心に

力強い愛の神よ　優しい愛の神と
讃えられるべきです
嘆きと涙を求めて　恋人たちを嘲笑う
あの酷いひとを燃え上がらせ　虜にしようと

天上から全知全能の神ゼウスは稲妻を投じ
デロス島の射手は　矢を雨のように降らす
黄金の愛の矢は　月桂樹をもって飾られます
それは何にも勝って力あるものですから

3. Dolcissimo sospiro

Dolcissimo sospiro
Ch'esci da quella bocca
Ove d'amor ogni dolcezza fiocca;
Deh, vieni a raddolcire
L'amaro mio dolore.
Ecco, ch'io t'apro il core,
Ma, folle, a chi ridico il mio martire?
Ad'un sospiro errante
Che forse vola in sen ad altro amante.

3. なんと甘い溜息よ

なんと甘い溜息よ
その唇から洩れるとき
優しい愛が舞い落ちるのです
ああ　ここに来て和らげてください
心のつらいこの苦しみを
きみに開くのは　ぼくの心
愚かな　誰に悲しみを告げるというです？
さまよえるあなたの溜息は
ほかの人もとへと飛んでいくのだろう

4. Non ha 'l ciel cotanti lumi

Non ha 'l ciel cotanti lumi,
Tante still' e mari e fiumi,
Non l'April gigli e viole,
Tanti raggi non ha il Sole,
Quant'ha doglie e pen'ogni hora
Cor gentil che s'innamora.

Penar lungo e gioir corto,
Morir vivo e viver morto,
Spem' incerta e van desire,
Mercè poca a gran languire,
Falsi risi e veri pianti
È la vita degli amanti.

4. 天にもこれほどの光はなく

天にも　これほどの光はなく
これほどの滴は　海にも川にもない
四月にも　これほどの百合もすみれもなく
太陽にも　これほどの光はない
あなたの悲しみと嘆きに比べれば
恋に落ちたやさしい心よ

嘆きは永遠で　悦びはあっという間だ
生きながら　死んでいるのと同じだ
希望は揺らぎ　願いは虚しい
これほどの焦燥に　情けはわずかだ
偽りの微笑みに　真実の涙
これこそ恋するものの人生なのだ

Neve al sol e nebbia al vento,
E d'Amor gioia e contento,
Degli affanni e delle pene
Ahi che 'l fin già mai non viene,
Giel di morte estingue ardore
Ch'in un'alma accende amore.

太陽の下の雪　風の前の塵
それは愛の悦びと慰め
けれども苦しみと悲しみは
ああ果てしなく続き
冷たい死の手は
魂に愛を燃やす炎を消し去ろうとする

5. Torna, deh torna

5. ああ　戻ってきておくれ

Torna, deh torna pargoletto mio,
Torna, che senza te son senza core!
Dove t'ascondi, ohimè? che t'ho fatt' io,
Ch'io non ti veggio e non ti sento, Amore?
Corrimi in braccio omai, spargi d'oblio
Questo, che 'l cor mi strugge, aspro dolore.
Senti de la mia voce il flebil suono
Tra' pianti e tra' sospir' chieder perdono.

ああ　戻ってきておくれ　私の幼子よ
お前がいなければ　心は虚ろだ！
ああ　どこに隠れて　何をしているんだ？
愛の神よ　姿も見えないし　声もしない？
ぼくの腕に飛び込んで　忘れさせておくれ
ぼくの心を責めるのは　苦い悲しみだと
悲しいぼくの声に　耳を傾けておくれ
涙と溜息で許しを乞おう

C.Monteverdi : Selva morale e spirituale

モンテヴェルディ『倫理的・宗教的な森』

36. Laudate Dominum

36. 主をほめたたえよ

Laudate Dominum in sanctis ejus.
Laudate eum in firmamento virtutis ejus.
Laudate eum in sono tubae.
Laudate eum in psalterio et cithara.
Laudate eum in tympano et choro.
Laudate eum in cymbalis bene sonantibus.
Laudate eum in cymbalis jubilationis.
Omnis spiritus laudat Dominum!
Alleluja!

その聖所で　神をほめたたえよ
その力の現れる大空で　主をほめたたえよ
ラッパの音をもって　主をほめたたえよ
竪琴と琴をもって　主をほめたたえよ
鼓と踊りをもって　主をほめたたえよ
音の高いシンバルをもって　主をほめたたえよ
鳴り響くシンバルをもって　主をほめたたえよ
息ある全てのものに　神をほめたたえさせよ！
アレルヤ！（神をほめたたえよ）

G.F.Händel : Messiah HWV 56

ヘンデル『メサイア』作品 56

2. Accompagnato

2. アコンパニャート

Comfort ye, comfort ye my people,
Saith your God;
Speak ye comfortably to Jerusalem,
And cry unto her that her warfare is accomplished,
That her iniquity is pardoned.
The voice of him that crieth in the wilderness,
Prepare ye the way of the Lord, Make straight
in the desert a highway for our God.

「慰めよ　わが民を慰めよ」
あなた方の神は言われる
ねんごろにエルサレムに語り
これに呼ばわれ　その服役の期は終わり
その咎は償われた
荒野に呼ばわる者の声がする
主の道を備え　われわれの神のために
砂漠に大路をまっすぐにせよ

3. Air

3. アリア

Ev'ry valley shall be exalted,
And ev'ry mountain and hill made low;
The crooked straight,
And the rough places plain.

もろもろの谷は高くせられ
もろもろの山と丘は低くせられ
高低のある地は平らになり
険しい所は平地となる

J.S. Bach : "Ich habe genug" Kantate BWV 82　バッハ『われ満ちたれり』カンタータ82番

1. Ich habe genug

Ich habe genug,
Ich habe den Heiland, das Hoffen der Frommen,
Auf meine begierigen Arme genommen;
Ich habe genug!
Ich hab ihn erblickt,
Mein Glaube hat Jesum ans Herze gedrückt;
Nun wünsch ich, noch heute mit Freuden
Von hinnen zu scheiden.

1. 私は満ち足りている

私は満ち足りている
敬虔な者たちの希望の救い主を
待ち望むこの腕に抱いているのだから
私は満ち足りている
私はあの方を見たのだ
私の信仰は　イエスをこの心に抱きしめたのだ
いまや私が望むのは　今日にも喜びのうちに
この世から去りゆくこと

2. Ich habe genug! Mein Trost ist nur allein

Ich habe genug! Mein Trost ist nur allein,
Dass Jesus mein und ich sein eigen möchte sein.
Im Glauben halt ich ihn,
Da seh ich auch mit Simeon
Die Freude jenes Lebens schon.
Lasst uns mit diesem Manne ziehn!
Ach! möchte mich von meines Leibes Ketten
Der Herr erretten;
Ach! wäre doch mein Abschied hier,
Mit Freuden sagt ich, Welt, zu dir:
Ich habe genug

2. 私は満ち足りています！ 私の慰めはただ一つ

私は満ち足りています！ 私の慰めはただ一つ
イエスが私の　私がイエスのものでありたいと
信仰のうちに　私はイエスを抱き
シメオンと共に
すでに　あの世での喜びを見ています
さあ　シメオンと共に歩みましょう！
ああ！ この肉体の鎖から
主が私を救ってくださいますように
ああ　この世からの別れがきたら
世よ　喜びをもってお前に言おう
私は満ち足りていますと

3. Schlummert ein, ihr matten Augen

Schlummert ein, ihr matten Augen,
Fallet sanft und selig zu!
Welt, ich bleibe nicht mehr hier,
Hab ich doch kein Teil an dir,
Das der Seele könnte taugen.
Hier muss ich das Elend bauen,
Aber dort, dort werd ich schauen
Süßen Friede, stille Ruh

3. まどろめ　疲れた眼よ

まどろめ　疲れた眼よ
穏やかに　至福のうちに閉じるがいい
世よ　私はもうここにはとどまらない
この世には　私の取り分などない
それが魂に役立つことだとしても
この世で私が築くものは　惨めなものばかり
だが　そこでは　そこではみるだろう
甘い平安と　静かな憩いを

4. Mein Gott! wenn kömmt das schöne: Nun!

Mein Gott! wenn kömmt das schöne: Nun!
Da ich im Friede fahren werde
Und in dem Sande kühler Erde
Und dort bei dir im Schoße ruhn?
Der Abschied ist gemacht,
Welt, gute Nacht!

4. 神よ！ 美しいその時は　いつ来るのでしょう

神よ！ 美しいその時は　いつ来るのでしょう
私は平安のうちに召されて
冷たい大地の砂の中で
そして彼岸で　あなたの懐に憩う日は？
別れの時は来たのだ
今世よ　おやすみ！

5. Ich freue mich auf meinen Tod

Ich freue mich auf meinen Tod,
Ach, hätt er sich schon eingefunden.
Da entkomm ich aller Not,
Die mich noch auf der Welt gebunden.

5. 私は喜んで死を迎えよう

私は喜んで死を迎えよう
ああ　今にでも死の時を迎えるならば
その時　すべての苦難から私は解き放たれる
この世で私を縛っている　すべての苦難から

Nunc dimittis servum tuum, Domine,
今こそ主よ、僕を去らせたまわん

"Simeon's Song of Praise"　Aert de Gelder
《シメオンの賛歌》アールト・デ・ヘルデル (1645 - 1727)